

「津軽にごり酒」好調

～お歳暮商品にオススメ～

当JAが8月20日から発売している特産品の桃を原料としたリキュール「津軽にごり酒」の売れ行きが好調だ。発売約2カ月で1800本を超えた。

同商品はJAの合併10周年を記念して製造。組合員に感謝を込めて9月末まで特別価格で販売したことで、販売数量が伸びた。

また、リピーターの増加や観光客の購入もあり、特別価格終了後も堅調に売り上げを伸ばしている。

今後は東京都にあるJA全農のアンテナショップ「いちごいちえ」での販売を検討し、販路拡大に努める。

購買部生活資材課直売の小山内崇課長は「白桃ピューレを40%使用しているため、風味が豊かで、とろりとした甘さが特徴だ。これからの季節はお歳暮にぜひ使ってほしい」と話した。



特設コーナーで販売する「津軽にごり酒」

板柳町福士春男さん旭日章受章

～日本の果樹産業に貢献～

平成30年の「秋の叙勲」で板柳町の福士春男さんが旭日章を受章。長年、公益財団法人青森県りんご協会に関わり、平成17年から27年に同会の会長を務め、りんごの改植事業や苗木の助成事業を強化する取り組みなどを行った。24～27年には全国果樹研究連合会の会長を務め、果樹共済の加入の改善要請など、日本の果樹産業発展に尽力してきた。

福士さんは「受章は関係者や生産者の協力があったものの。若手農業者の育成や、地域の果樹農業の振興に力を入れていきたい」と感謝の気持ちを述べた。



旭日章を受章した福士春男さん

紙芝居で女性部交流

～JA京都府ママさん大学～

JA京都府女性組織協議会は毎年、府内JA女性部員の相互交流と学習のため「JA京都府ママさん大学」を企画している。今回は、青森県と北海道で実施し、JA津軽みらいでは女性部同士の交流を行った。全7回を10月下旬から11月中旬にかけて実施し、約340人が参加する予定。

10月25日、1班としてJA京都中央から29人が訪れた。女性部員の交流会では、りんごの栽培管理が分かるようにJA津軽みらい女性部手作りの紙芝居を披露。6支部の女性部員が紙芝居で使う小道具の動きやセリフの練習を重ねた。初日となる今回は、板柳支部4人が紙芝居を披露し、交流を深めた。

JA京都中央の女性部員は「紙芝居の動作があつて分かりやすかった。自分たちの特産物で紙芝居を作って披露してみたい」と話した。

翌日は、アグリアスと唐竹りんごセンターの見学と、りんごの収穫体験を行った。



りんご栽培の紙芝居を披露する女性部員



アグリアスを視察したJA京都府ママさん大学